

## <それぞれの個性> 人権作文コンテスト 熊本県中央中1年 鈴木田侑河さん

11月は熊本市は心かがやけ月間です。今回は、中央中学校の生徒が書いた作文を紹介します。僕には学習障害がある。小学校に入学してから、なぜか漢字が苦手な覚えられない。毎日の宿題の「ノート1ページに漢字を書いてくる」がとても苦痛。漢字が覚えられない僕のことを心配して母が更に追加ページの猛特訓をしかけてくる。僕は泣きながら漢字の練習をした。そして漢字テストの日、母のスパルタ特訓に耐えて頑張ったのに点数が悪い。漢字が頭の中に浮かんでこない。変な形でイメージされる「はー」ため息だ。そんなこんなで教科書も読みづらいし、文字を書く時も、いちいちタブレットで調べながらでないと書けない。全教科のテストも読みづらいが原因で時間がかかってしまい点数が悪い。もう勉強なんて大嫌い。自分にも自信が無くなっていた。

五年生になった頃、新しい担任の先生が僕のことを気にかけてくれるようになった。そして先生のおすすめで保健センターへ相談に行くことになった。保健師さんや医師が僕に色々なテストを実施し、診断して下さった。そこで言われたことは、「ディスレクシア」の傾向があるとのことだ。ディスレクシアとは文字から情報を得ること、考えたことを手書きで出力することが苦手なそれらの正確さとスピードが平均的な人と比べると劣ってしまう生まれつきの特性のことだ。

「そういうことだったのか！」僕は説明を聞いてほっとした。自分は頭が悪くクラスのみんなのように覚えられない。自信をすっかり無くしていたからだ。母は落ち込んでいたように見えた。僕の兄が学習面ではとても優秀だったので、僕のこと期待はずれだったかな・・・とか色々考えた。でも母は言った。「これは生まれつきの個性だからしょうがない！漢字が読み書きできない分、絶対ほかに才能があるはず、これからは得意なことを伸ばしていこう」それから母のスパルタ漢字特訓はやめて、テニスやスイミングなど僕の得意な運動系にシフトした。もちろん将来困らないように勉強もタブレットを使いながら自分なりに頑張っている。

僕の診断が出てから、学校の先生と母と学習障害のことをクラスのみんなに伝えるか相談した。バカにされるかもしれないと不安もあったが、伝えることにした。伝えてからは、みんな理解してくれ、授業中も僕のことを気にかけてくれて、とても嬉しかったし、とても楽になった。ありのままの自分のでいれるので自信も取り戻した。クラスメイトのみんなには感謝している。それから僕が心に決めたことがある。僕もみんなの個性を尊重することだ。お互いが個性を理解することで一人一人が幸福な気持ちになり生きやすい社会になると思うからだ。それぞれの個性が輝き人の役に立っていく、そんな未来になってほしい。



前号の学校便りでもお伝えしましたが、自分のことをクラスに語ることで子どもたちの見方が変わります。今回の筆者も、悩みながらも先生や母と相談してクラスに伝えています。その後は、「みんなが理解してくれた」「とても楽になった」と言っています。自分を語るという取組は、進路公開の思想を受け継いだものですが、お互いの関係性が大きく変わる取組だと思います。

## <避難訓練>

11月17日(月)は火災避難訓練を実施しました。誰一人ふざけることはなく、立派な態度で臨んでいたため、消防署の方からも褒めの言葉を頂きました。今回は訓練と分かっていますが、もしも本当の火災に出会ったときは、まずは冷静になり、全力で命を守る行動を取ってほしいと思います。



熊本ライオンズクラブ主催、第53回青少年俳句会において藤永綾乃さんの作品「冬日向 猫のひげまで 光りけり」が地賞(熊本県知事賞)を受賞しました。藤永さん本当におめでとうございます。また、ご指導いただいた丸山先生ありがとうございました。